

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	食と遊びによる子育てサポート事業
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	認定NPO法人CPAO
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	大阪府及び近郊地域
事業対象者:	経済的・精神的に厳しい状況に置かれている親子

Version 3.2

日付: 2021/10/13

I. 事業概要

事業実施概要	<p>○週3～4回、200食の宅食・宅配を通し、各家庭の家事サポートを行う。そこでの子どもたちへの食や遊びの提供から各々の家庭内の問題に着手し、家事・育児サポートを行っていく。（ホットミールプロジェクト）（子育てサポーター事業）</p> <p>○隔週週末は親子を和歌山県橋本市の里山活動拠点に招待してお泊り会を行う。より関係性を深め、サポートへとつなげていく。（週末別荘計画）</p> <p>○他の週末は、食や遊びに関する各種イベント等に子どもたちを参加させ様々な機会提供を行う。（CPAO Kitchen・CPAOくらぶ）</p> <p>○仮称キッチン&パークの設置により、いつでも子どもたちを預かったり、相談を受けたり、食事提供ができる拠点を確保し、アウトリーチ活動の効果を高める。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナ禍の思わぬ長期化と、制限下であり、「子どもたちを集める」という活動形態が難しくなった。</p> <p>元々、最初の休校措置（2020年2月27日）以降、子ども食堂的な集合型の活動を廃止して、個別訪問型のサポートを行う、「ホットミールプロジェクト」を開始した。いずれ収束方向へと向かうことを見越して、活動拠点の手配を検討していたが、周囲のコロナ警察の目もあり、早い時期での活動拠点での活動は難しい状況になっていた。</p> <p>そんな中、条件に合う物件探しも難航していたが、リノベーションを必要とする物件を獲得することができ、そのリノベーション作業自体も、就労機会の一環として利用できるようにして、2021年に入ってからは、その作業にお母さんや子どもたちも巻き込み、遊びの要素も入れて、プログラムを進めることができた。</p> <p>そこにきて、コロナ禍の長期化が後押しし、集合型イベントは取らず、3密とならないプログラムとして、活動拠点のリノベーションに加え、和歌山県橋本市の里山活動や相談会などのイベント、アウトリーチなども、すべて個別対応にて進めていくことができた。</p> <p>ホットミールプロジェクトは週200食を目標と掲げていたが、実際は120～150食程度にとどめた。しかし、1食分を多めに作ることで、半分は次の日に食べた、や、お弁当分を分けても充分足りました、といった意見がほとんどであった。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	食料関連の不足	宅食や宿泊・遊びへの参加などを通して、より生活に入り組んだ問題への着手を行える。	つながる子どもの人数と食事提供数。	子ども300名・大人（親）100名に対して年間10000食の提供。	<p>手作りお弁当による提供食事数は6,000食程度に留めた。そこでつながった子ども83人（のべ3,160人）大人42人（のべ1,371人）。</p> <p>それ以外にも単発での食材提供（米や乾物など）は週に2～3回行い、継続方向へつなげられるように促したが、そこから継続につながることは少なかった。</p> <p>コロナ禍の長期化もあり、会ってサポートを深めていくのが難しく、関わりとしてはその前後に振り分けられて留まった。</p> <p>単発のサポートにおいては申告された子どもの数でしかカウントできないため、確かな数字とはならないが、大人110、子ども約200と思われる。</p>	週に200食・1年50週の提供で1万食を目標としていましたが、配達や配送費を抑えたり、1食分の活用（夕食と次の日のお弁当分など）を多様にしてもらうよう、1食に実質2食分の内容を詰め込みました。 <p>なので、週に120～150食の提供として、トータルの提供数は1万食に及びませんでした。内容的には充分にその内容に達することができました。</p>
子ども・学生	居場所の不足	いつでも駆け込める拠点の設置により、アウトリーチを積極的に行える。	子育てサポーターの出勤回数。	子育てサポーターの出勤回数100回	毎週平均3～4回の出勤で、200回以上達成。	<p>居場所としての活動は緊急事態宣言が長期化したことから機能しにくいことから、個別対応で家事・育児サポートに入ることで対応した。</p> <p>サポートしている家庭はシングルマザーが多いこともあり、大型の買い物や買い物中の子ども対応などが喜ばれた。</p> <p>普段接していることから、早期の脳梗塞の発見につながったり、そこからの食生活の見直しに至っては、買い物時からアドバイスもできた。</p> <p>他にも引っ越しや大掃除、託児、息抜きや相談対応などを行った。</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	現状、将来に希望を見出し切れていない子どもたちが少なくない中、子どもたちの育ちをサポートする大人や環境との出会いを通して、少しでも希望を持って生きていく意思・スタイルを発見してもらう。
考察等	安定した食の提供を軸に、親子との関係性を築き、そこから子どもたちにリーチしていくことを目的として活動を進めてきた。 食材・食事の提供や、拠点活動でのお母さん方の受け入れも、少しずつ安定してきているが、抱えている問題の多様性から、子育てサポートを安定させていくためにも、お母さん方の就労における安定も同時に必要であることが見えてきており、安易に「子育てにおける直接的なサポート」にとどまらず、それを可能にするための、「子育てを社会においてサポートしていけるような、お母さん方の就労の安定と社会との共存を整えていくサポート」というものも同時におこなっていく必要を感じて実施した。 今後は関係世帯を増やし、さらに様々なモデルを構築できるよう、就労も含めたプログラムの多様化を目指し、本来の目的である子どもたちへのリーチを見えやすくするためにも、サポート世帯は必ず参加という条件を絡めたプログラムの実施なども行い、毎月の子どもサポート数を明確化していく。

V. 活動

活動	進捗	概要
子どもたちへの宅食・相談とそこからの家事・育児サポート（ホットミールプロジェクト）（子育てサポーター事業）	計画通り	（週3回。）毎週120~150食のペースで惣菜を作り、遠方は発送、主に大阪市内は配達としている。 メニューや量によって届ける家庭の振り分けを行い、それぞれの家庭に合わせた追加食材も入れている。 配送は保冷状態とし、保存状態も確認しながら翌日の朝食やお弁当にも使ってもらっている。 訪問によって会えた際には、会話の内容から様子を窺ったり、相談に乗ることもあったり、イベントへの参加の確約なども行い、他の活動へとつなげている。 緊急事態宣言が続き、気候の変化や生活のストレスなどから体調を崩している親子も多く、個別の対応が続いている。 他団体からも食材が集まってきているので、そういったものも乗せて訪問回数を増やしている。
里山活動拠点での宿泊受け入れ（週末別荘計画）	計画通り	10月に入れば緊急事態宣言も解除されるだろうと、9月は恒例のお泊り会は行わず、10月以降に持ち越しということで子どもたちに納得してもらった。しかし、個別には対応し、公園遊びや室内遊びなどの機会は確保し、対応した。
各種イベントへの参加機会提供	ほぼ計画通り	生野区子育てなんでも相談会を実施。ここに生活困窮されている方を社協がつなげてきたが、物資提供団体への登録をさせるだけで、抱えている問題に入り込むこともなく、そういったサポートの重要性を改めて実感。 その後の毎週のお弁当の個別訪問配達などへのサポートへつなぎ、サポートを継続していくことになった。
仮称キッチン&パークの設置 少路⇒仮称）CPAO Kitchen@	遅延あり	稼働中。緊急事態宣言もあり、宿題カフェは一旦保留だが、10月からの再開に向けてなどもスタートし、子どもたちとの活動にも活用中。 また、親との採め事などもあり、逃げる場所が無い子どものお泊りなども実施。
キッチン&パークの稼働（アウトリーチ、子ども預かり、相談受付）	ほぼ計画通り	キッチンカーを利用したり、外でのイベント的なアウトリーチは展開が難しいが、個別での子ども預かり対応や相談は継続している。（北区中津での出店計画は緊急事態宣言の発令により延期） 個別での家事・育児のサポートは増え、新規の相談も増えている。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	親へのニーズは「家事・育児・就労」のサポートに尽きることが見えてきた。 元々は食の安定した提供ができる、ピアサポートの仕組みを構築し、モデル化することを目標としていたが、そこに向けた活動の継続により、活動や作業への参加が就労のサポートとなっていく流れが見えだしてきた。 また、サポートをつづける家庭の親は、本人の自覚がないが、何かしらの認知などの発達障害の傾向が少なくなく、ゆくゆくは就労支援制度につないでいくこともできることが分かってきた。そこから、就労へのサポートにもつないでいくことで、さらなる継続性のある取り組みへの発展させていくことができた。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナ禍は、平時の問題を加速化させた面があり、顕在化する側面を見せた。声を上げられる方はまだマシなほうで、よりしんどい状況にある親子はなかなか声を上げることができない環境にあった。 また、その地域のサポートに繋がった方も、登録制の、支援側からの一方的な食材・物資提供が行われるパターンが多く、孤立している問題に、精神的にも寄り添ってもらえるサポートが少ないのが現状だった。 そういった支援がほとんどを占めている中で、個別に時間をかけて寄り添い、想定外のコロナ禍の長期化においてもそのニーズに対応したサポートを続けることができた。平常時であれば家庭内や社会においてわずかに抱える問題も、時間の経過と済し崩し的に対処していたことが徐々に蓄積され、対応し難い問題に発展していく様をも目にすることが少なくなかった。例えば、家庭内や地域における居場所や相談先の少なさが積み、SNSでの交遊へと発展したことから家出や深夜徘徊につながるなどの問題にも脈絡があり、そういった問題にも対処し始めることができた。 今後はさらなるニーズに対応した活動へと発展させながらも、安定したサポートを継続できる体制を固めていきたい。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
生野子育て社会化研究会	地域の他団体や区社協との連合団体で、区への提言、相談会の実施などを行った。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	8,900,000	9,200,375	103.4%
	管理的経費	2,130,000	1,829,625	85.9%
合計		11,030,000	11,030,000	100.0%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	2020年度活動報告書

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類（指針・ガイドライン等を含む）	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	・Webサイト改定にあたり、公開内容を検討中。 ・助成期間内に整備した規程類について、団体内で今後の改定有無を検討中。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	外部の税理士に相談して進める予定。
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	